

京都市立吳竹総合支援学校

前期学校評価について

平成28年11月5日

～前期「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました～

アンケート等から、前期の学校評価の分析結果を報告させていただきます。

紙面の都合上、保護者の学部別のアンケート結果のみを掲載し、教職員と保護者全体のアンケート結果を比べたグラフと、児童生徒のアンケート結果のグラフはホームページに掲載させていただきます。

この結果につきましては、全教職員に周知するとともに、10月28日の学校運営協議会において報告し、委員の皆様からご意見を頂戴しました。いただいたご意見を参考にして、全校で課題の改善に取り組んでまいります。

学年だよりや吳竹だより、学校ホームページで取組の内容や成果についてお知らせしてまいりますが、ご不明な点がありましたら、担任を通して学校までお問い合わせください。

本年度の学校教育目標と目指す児童生徒像を掲載させていただきますので、ご参照ください。

なお、後期の「学校評価アンケート」は、1月上旬に実施する予定です。よろしくお願ひいたします。

*回答率

	保護者	児童生徒	教職員	* 1家庭に 1枚配布
回答数	154	76	120	
回答率	76.2%	36.7%	90.2%	

*分析方法

- ・学校と家庭との連携をはかるために、ご家庭での取組についてお伺する項目も設定
- ・アンケートの各項目について「重要度」と「実現度」を4段階で回答。(児童生徒は実現度のみ)
- ・アンケートの各項目の回答を割合(%)でまとめます。
- ・アンケートの結果と取組や授業参観のアンケート等をあわせて分析。

*アンケート結果【保護者】

・重要度は「重要である」と「やや重要である」、実現度は「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合(%)を学部別に表示

質問項目	重要度			実現度		
	小	中	高	小	中	高
◆元気に挨拶する						
・児童生徒は自分なりのしかたで挨拶をしている	100	97.0	98.8	83.4	82.2	90.0
・わたしは、児童生徒に「おはよう」等の挨拶をしている	100	97.1	100	97.3	94.0	90.1
・教職員は、保護者や来校者に挨拶をしている	100	97.0	98.8	100	87.9	98.8
◆丈夫な身体をつくる						
・学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている	100	97.0	97.5	100	90.9	97.5
・児童生徒は、規則正しい生活を送っている	100	97.0	98.7	97.3	84.4	86.1
・わたしは、児童生徒が健康について意識できるように取り組んでいる（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）	97.3	97.0	96.3	75.0	62.5	82.5
◆人を大切にし 共に生きる						
・児童生徒は、友達を大切にしようとする気持ちを持って、学校生活を送っている	94.6	97.0	100	72.9	75.1	90.0
・交流及び共同学習で、児童生徒は意欲的に活動している（居住地校交流、桃山小学校・桃山中学校・銅駄美高との交流及び共同学習等）	94.6	85.4	91.3	73.0	56.0	79.2
・児童生徒は、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている（地域の施設等での校外学習、実習等）	94.6	91.2	97.5	56.7	60.6	79.7
・わたしは、児童生徒が人と関わっていく上でのマナー・ルールを身に付けられるよう正在している。	97.2	97.0	97.5	55.6	56.3	77.5
・学校では、ルールを守り、他人への気遣いをするなど、集団生活の基本に関する指導が行われている。	94.9	97.0	100	94.6	84.8	92.4

◆役割を担い 役に立とうとする						
・学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業や行事をしている	97.3	97.0	100	100	81.9	95.1
・わたしは、児童生徒の「できること」をみつけて褒めている	100	97.0	100	89.2	78.8	80.0
・学校は、児童生徒の年齢や適性に応じた進路学習を行ったり、関係機関との連携をしたりしている	100	97.0	97.6	70.2	66.7	91.3
・保護者と学校が連携して、児童生徒の進路について考えている	100	96.9	100	72.9	64.6	91.9
◆願いや夢に向かって進む						
・本人および保護者の願いが十分に、個別の包括支援プランに反映されている	100	96.9	100	97.3	90.3	93.3
・保護者と学校は、児童生徒の願いや目指す姿を共有している	100	96.9	98.7	94.5	83.9	87.8
・児童生徒は、目標や意欲を持って活動している	91.9	93.8	98.6	91.1	77.4	79.4
◆興味や関心を拡げ 心豊かに生きる						
・学校は、児童生徒の興味関心を拡げ、個性を伸ばす授業をしている	100	96.9	98.7	89.1	61.3	89.2
・学校は、児童生徒の余暇活動につながる取組をしている	91.9	93.7	98.7	56.7	74.2	74.3
・児童生徒は、休日や放課後に、楽しく活動している	100	96.9	96.3	91.8	83.9	89.2
・児童生徒は、好きな活動や趣味をみつけて取り組んでいる	97.3	93.8	98.6	78.3	70.0	82.4
◆その他						
・学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる	97.3	96.9	100	89.2	93.5	90.3
・学校は、物品の整理・整頓や安全・事故予防に取り組んでいる	100	96.9	100	94.6	83.8	95.9

* 分析結果

◆元気に挨拶する

「児童生徒は、自分なりのしかたで挨拶をしている」の項目では保護者全体で86.5%が肯定的な回答（よく出来ている、大体出来ている：以下同じ）をされ、「わたしは、子どもに『おはよう』などの挨拶をしている」の項目では、保護者全体で92.6%，教職員で93.4%が肯定的な回答をしています。また、「自分なりのしかたで挨拶をしている」という項目に、児童生徒の97.4%が肯定的な回答（そう思う、どちらといえばそう思う：以下同じ）をしています。



児童生徒の肯定的な回答が昨年度の後期よりも少し増えています。卒業や入学などで児童生徒が入れ替わっていることもありますが、引き続き家庭と学校が連携して取り組んでいきたいと思います。

◆丈夫な身体を作る

「わたしは、児童生徒が健康について意識できるように取り組んでいる（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）」の項目では、保護者全体での重要度の肯定的（重要である、やや重要である：以下同じ）な回答は96.7%，実現度の肯定的な回答は79.0%でした。また、「しんどくなった時に、先生や家の人に話している」の項目で、82.9%の児童生徒が肯定的に回答していました。昨年度の学校運営協議会で、「思いなどを表出しにくい児童生徒がカードを使うなど、取り組んでいる事を家庭と学校で共有していけばよい」というご意見をいただき取り組んできました。児童生徒の心身のしんどさを軽減していくよう、家庭と学校で連携して取り組んでいきたいと思います。

「夜更かしをしないで、規則正しい生活をしている」の項目で、82.6%の児童生徒が肯定的な解答をしていました。昨年度後期より増えているものの、否定的な回答（どちらかといえばそう思わない、そう思わない）をしている割合は他の項目に比べて高くなっています。否定的な回答をしているということは、客観的に自分の生活を見て「よくない」と意識できているのではないかとも考え



られます。そうしたこともふまえて、児童生徒が自分自身で生活を見直し、改善していける力をつけたいけるようにしていきたいと思います。

夏休みに児童生徒の体力が低下したことを実感したという保護者のご意見がありました。引き続き、健康維持や体力づくりに関する取組を行っていきたいと思います。

◆人を大切にし 共に生きる

「わたしは、児童生徒が人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている」の項目では、保護者全体の実現度の肯定的な回答は 67. 6% でした。家庭では取り組みにくいこともありますし、集団の中で付けていくような力もあります。社会の中で生活していくことを考えて、実態や学年に応じてマナーやルールを身につけていけるように、家庭と連携して取り組んでいきたいと思います。

「児童生徒は、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている」の項目の保護者の肯定的な回答は、小学部 56. 7%，中学部 60. 6%，高等部 79. 7% でした。このことは、小学部では集団の中で得意なことや基礎的・基本的な力を伸ばすことを目標にし、中学部では小学部で培った力を家庭・学校・地域での生活で伸ばし、応用的な力につける目標に、高等部では社会参加しながら実用的な力を伸ばすことを目標にしている事と関係していると思います。小学部から買い物学習や校外活動などで地域に出かけ、地域の人たちと関わる機会を持つようにしています。

児童生徒の「毎日学校に行くことが楽しい」の项目的肯定的な回答は 98. 7% でした。

児童生徒が、「楽しい」「今日もがんばってやろう」と思えるような学校であるようにしていきたいと思います。

◆役割を担い 役に立とうとする

「学校は、児童生徒の年齢や適性に応じた進路学習を行ったり、関係機関との連携をしたりしている」の项目的保護者の実現度の肯定的な回答は、小学部 70. 2%，

中学部 66. 7%，高等部 91. 3% でした。「保護者と学校が連携して、児童生徒の進路について考えている」の项目的保護者の実現度の肯定的な回答は、小学部 72. 9%，中学部 64. 6%，高等部 91. 9% でした。高等部になると実習も始まり、進路説明会や進路相談等も実施され、卒業後の進路にむけて保護者と教職員で話す機会も多くなることからこうした結果になったのだと考えられます。しかし、係活動や当番活動など小学部の時から、社会的・職業的自立に向けた能力や態度を育てていますし、全校対象に進路だよりを配布したりしています。引き続き、保護者と教職員とが連携して、学年に応じて、児童生徒の進路について考えていけるようにしていきたいと思います。



◆願いや夢に向かって進む

「児童生徒は、目標や意欲を持って活動している」の项目的保護者の実現度の肯定的な回答は、小学部 91. 1%，中学部 77. 4%，高等部 79. 4% で、学部によって差がありました。児童生徒の「学校の授業の内容がわかつて活動している」の项目的肯定的な回答は 94. 6%，「学校で学習したことは自分の役に立っている」の项目的肯定的な回答は 90. 6% でした。本年度は「一人一人が主体的に活動する授業づくり」をテーマに研究に取り組んでいます。その中で、児童生徒の主体的な姿を引き出すために、「できる状況づくりと支援」を検討してきました。今後も、さらに、児童生徒が「何のために」「何をするのか」がわかりやすい授業を実践していくとともに、取組内容や児童生徒の様子について、保護者に伝えていきたいと思います。



◆興味や関心を拓げ 心豊かに生きる

「放課後や休みの日に楽しく過ごしている」の項目では、児童生徒の肯定的な回答は 98. 6% でした。保護者全体の実現度の肯定的な回答は、「児童生徒は、好きな活動や趣味をみつけて取り組んでいる」で 78. 8%，「児童生徒は、休日や放課後に、楽しく過ごしている」では 88. 7%，「学校は、児童生徒



の余暇活動につながる取組をしている」は69.0%でした。また、保護者から「休日に子どもの希望を聞いて家族で楽しんでいるつもりですが、もっと集中して楽しめ、又、それが広がっていくような趣味や特技を見つけていかないと…と改めて思いました。」というご意見も頂きました。QOL（生活の質）を高めるためにも、興味関心のある活動に取り組めることは大切であると思います。授業の中で、児童生徒の興味関心を拡げていけるような取組をしたり、「からだ」だけでなく、エクササイズや造形、和太鼓など興味関心を拡げる授業をしたりしています。すぐに、「これがしたい」「これが好き」という結果は出ないとは思いますが、引き続き取り組んでいきたいと思います。また、今後も、休日等の活動の場や機会があれば、チラシ等を配布して、お知らせしていきたいと思います。

◆その他

「学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる」の項目の保護者全体の実現度の肯定的な回答は90.7%でした。保護者から、「今年度からの入学なので、親子共々、不安いっぱいでした。支援学校の情報は、鳴滝や白河はたくさんありましたが、呉竹はほとんどなく、オープンスクールも1回だけだったので心配だらけでした。せっかくいい学校なので、もう少し情報があつてもいいのでは、と思いました。」とのご意見もありました。学校の様子については、ホームページや学校だより等でお伝えしています。また、学部や学年からのおたよりを、学部や学年の実態に応じて配布しています。引き続き、取組や様子を発信してきたいと思います。

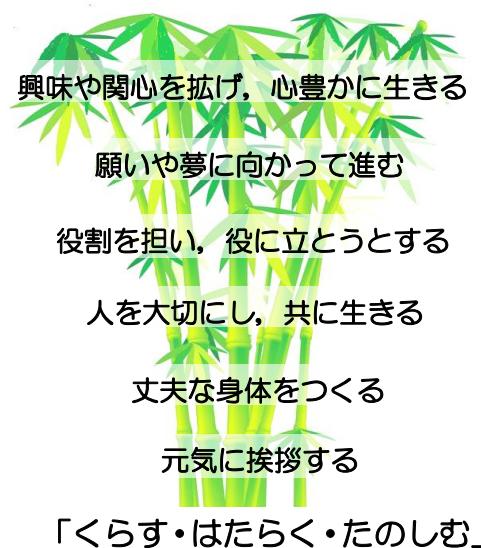
◆学校運営委員会の委員の方々より

・交流及び共同学習についての実現度が、小学部に比べて中学部で低くなっているが、全国的にそのような傾向にある。支援学校以外の学校から支援学校に来てもらう交流を行ってはどうか。京都市は支援学校と支援学校以外の学校でPTA等いろいろなつながりがあるので、それを拡げていき、支援学校以外の学校の保護者や教職員に支援学校についての認識を深めてもらうようにすれば

どうか。

- ・ここ数年で、土日にもヘルパーやデイサービスを利用することができるようになり、保護者の余暇に対する困りが減ってきたことから、余暇に関する事を学校に求めなくともよくなってきてているのではないか。
- ・余暇体験サークルの参加者が減ってきてている。地域の学校の育成学級や他の支援学校に呼び掛け、支援学校からの参加者も出てきた。引き続き呼び掛けていく。
- ・「こうあってほしい」といった大人の目線だけでなく、子どもたちの思いはどうか。子どもたちが学校は楽しいところと思っているか。通っている人が満足しているかという視点も必要ではないか。

◎目指す児童生徒像



◎平成28年度学校教育目標

社会参加し、生き生きと活動したい
という児童生徒の願いを実現するため
に、一人ひとりが力を発揮できる環境
を整えるとともに、個々の可能性を最
大限に伸ばす